

## I. 共和国——私的所有を巡って

○主権、法、資本の関係として政治を考える。

《個の概念は存在することではなく所有することによって定義される。》私的所有の不可侵。

○生産（手段）の集合性と私的所有の個別性。上部構造と下部構造。法律・制度と経済構造・様式。→古典的な搾取論から身体への資本主義的暴力へ

《…フェミニズム思想、反人種主義、反植民地主義思想、ジェノサイドに対する意識という三つの視点のそれぞれが、その世代のマルクス主義理論家に対し、労働する身体の商品化だけでなく、ジェンダーや人種によって身体の与えられる拷問を認識するように強いた》

○フーコーの生政治分析：権力→抵抗→主体形成

《この抵抗と闘争を通じた主体性の生産が、既存の権力形態の転覆にとっただけでなく、オルタナティブな自由への生成の制度の構成にとっても、きわめて重要である》

○ホッブス⇒スピノザ⇒ボイル マルクスの規定

《プロレタリアートは貧者のマルチチュード》

①主体の形成とは何か？主権者／市民という一般的な規定でなく、ましてや労働者階級というのでもなく、私的所有から隔離された人間すべてを、抵抗主体と捉え、その主体形成を期待している。ホッブスの共和国は平等から出発しているとするなら、この規範から共和国の欺瞞を暴露している点は評価。

②法および上部構造を下部構造からは演繹せず、生政治という身体的搾取という観点から導き出しているのは、法を単にブルジョアの私法だと言ったところで、世界がブルジョア的荘園制であるような意味でしかないのではないか。

③（古典的マルクス主義が想定していた）変革主体としての組織された労働者階級が先進工業社会において少数派となった今、主体を生産手段の私的所有という領域からではなく、社会的抑圧構造の中から見つけ出そうとしている。その際に依拠する基準が、フーコーの生政治という観点。⇒なぜ、産業構造の変遷から主体を探らないのか？20年代の西ヨーロッパにおける革命の敗北を分析しないのか？市民社会の強固な岩盤。ヘゲモニー論の検討。

参照1：エルネスト・ラク라우／ジャンタル・ムフ『民主主義の革命』1985-2001年第二版

《今日、左翼思想は岐路に立っている。…すなわち、ブダペストからプラハとポーランドでのクーデタ、カブールからヴェトナムとカンボジアにおける共産党の勝利の後遺症に至るまで、社会主義とそこに導かれるべき道程の双方を構想する全体的方法に対して、疑問符がますます重く付されてきたのである。このことは、左翼の知的地平が伝統的に構成されていた理論的・政治的土台に関する批判的考察——辛辣かつ必然的な考察——をふたたび要請する結果となった。…変容の背後には、一連の積極的な新しい現象が横たわってきた。すなわち、新しいフェミニズムの台頭、エスニック的少数派、民族的少数派、性差別を受ける少数派の抵抗運動、周縁化された住民層の反制度的なエコロジー的闘争、反核運動、資本主義の辺境に位置する国々での不統一な形態の社会闘争である。これらの運動はすべて社会的紛争をより広範な領域に拡大することを含意していたが、それらは、より自由で民主的かつ平等な社会の前進を促す潜在力——あくまでも潜在力以上のものではなかったが——を作り上げていた。》 p.36-37

参照2：デヴィッド・グレーバー『資本主義後の世界のために 新しいアナーキズムの視座』

《…彼（ネグリ）は運動とアカデミックな場所の橋渡しをした、ある種の翻訳者です。ただしそこ

で問題なのは、彼のやり方はいまだに知識人が前衛を形成してしまうようなレーニン主義の小さなこぶが残っていることです。これは誰が新たな革命の主体化を問う「マルチチュード」の論議に現れています。もう「人民」の名において人々が行動するとは主張できない。しかし「構造的権力」の元になるグループを再設定せねばならない。そこで「名づけ」が必要になるのです。そのためにスピノザに回帰し「マルチチュード」と呼ぶ。そして「マルチチュードの存在性とは何か」と問う。マッシモ・デ・アンジェリスが指摘したように、それは間違った設問です。正しい設問は「マルチチュードは何をするのか」です。「何が革命的行動か」「何が革命的実践か」を問うことが重要なのです。しかし彼らは何かを「名づけ」ねばならない。そこに「存在者」がいなければならない。なぜ「存在者」を名づけねばならないのか。私に考えられる答えはただ一つ、もし名がなければ、そのために何も語ることができなくなるからです。だから私はそれを「前衛主義のたそがれ」と呼ぶのです。》 p.36-7

○《アッシジのフランチェスコ修道会は、教会権力の腐敗と私有財産制度——両者は密接に結びついていた——に反対するために清貧の美德を説いた。  
フランチェスコ会の修道士たちは地上に公正で良き社会が創られるのは〈共〉的な富という基盤があってこそだと主張した。》

④ 〈共〉は歴史貫通的なものとしてイメージされているのか？私的所有は、平等に反する制度ではなく、紛争を解決するための境界線であったのではなかったか。〈共〉が私的所有によって侵害されて腐敗と強欲を生み出すという考えは、原始共産主義社会という観念から直接導き出されている。私的所有ではなく、自己利益の追求という資本主義的な利己心への警告として提起されているのは、シンパシーという道徳ではなかったか。

#### D. グレーバー

《…共産主義を全体的機構として見ないならば、共産主義はどこにでもある。エクソンやシティバンクといった巨大会社の内部でさえ、人びとはほとんどの時間、共産主義的に労働しているのです。共通の任務を前にした時、人は仲間に「そのスパナを取ってくれ」と頼まれた際、「代わりに何をしてくれる？」とは言わないものでしょう。みなそれぞれの能力に応じて他人の必要に答えているのです。実践の論理においては、何かを達成しようとするならば、共産主義者のようにふるまわねばならないのです。》 p.52-3

## II. 近代

○反近代性とは前近代における抵抗勢力のことか。農民一揆の戦闘性と宗教的背景。

《ロシア、中国、キューバにおける三大社会主義革命は、革命にいたる闘争には強力な反近代性の諸力が満ちあふれていたものの、革命成功後にはいずれも近代化プロジェクトを決然と推進することになった。》

○レーニンへの無い物ねだり

《…レーニンに欠けているのは革命的闘争の精神ではなく、資本主義イデオロギーとその進歩概念のもつ、人を惑わす機能についての十分な分析なのだ。》

○《ソビエト連邦の場合…

…マルクス主義は進歩の進化論へと単純化され…危機には政治構造の民主的状態、官僚エリート層の統治機構、そしてソビエトの準植民地的拡張…》⇒『帝国』からの引用参照

①未発達な経済やアンバランスな植民地経済に対する(近代性ではない)対抗軸を示さなければ、あまり説得性がない。

②古典的マルクス主義の「進歩史観」に対する、エコロジスト等からの批判を取り込むことがここでは意図されているのか？

○《カントからハイゼンベルグにいたる近代哲学では、視点が客体を生み出すと考えるのに対し、ここでは視線が主体を生み出す。また、近代哲学がひとつの自然とたくさんの文化を想定するのに対し、ここでは一つの文化（ある意味ですべての文化は人間的なものである）とたくさんの自然（それぞれが異なる世界を占める）があると考えられている。…近代哲学の「多文化主義」とは異なり、アメリカ先住民の「多自然主義」を見出すのである。》

③人類学的な視点から。自然との共生？と言いたいのか？機械文明や資源多消費型の経済構造が近代（資本主義）の生み出した負の側面としたら、社会主義革命は近代と資本主義との癒着構造を明らかにする必要がある。近代と反近代を区別している基準は何か？近代-官僚制、資本-環境破壊という図柄か？

④20世紀初頭の歴史的変革期に現れた様々な新しい視点を、当時の階級闘争とその政治的指導理念への批判として用いるのは不当。それは歴史的に評価すべき。

### Ⅲ. 資本

○資本主義の変容：新自由主義的政策。公共圏の収奪のこと。

《…搾取は〈共〉の収奪＝収用という形をとるにいたっている。…だけでは、…不十分…》

○資本主義的レント：労働時間に還元できない価値創造。工場労働、機械から離れた新たな収奪形態。

《…生政治的労働の搾取…労働の技術的構成の変容における三つの主要な動向はすべて、〈共〉的な形態の富—知識、情報、イメージ、情動、社会関係など—の生産にかかわっており、それらの富はその後、資本によって収奪＝収用され、剰余価値を生み出すことなる。》

《生政治的文脈においては、資本は労働だけでなく社会全体を包摂する、あるいは実質的に社会的生（社会生活）そのものを包摂するといえる…》

《労働時間と非労働時間の区別が消失し、労働者は24時間働く必要はないにしても、常に働ける状態にあることが要求される。》

①様々な規定が混在する現在。整理が必要。既に戦後日本では労働は資本と社会に包摂されている。労働者まるごと会社人間となる。キャッチフレーズ「24時間働けますか」逆に、80年代以降、不安定労働が増大するにつれて、脱会社人間が散見されるようになる。欧米的労働慣習との違い。図表参照。

②生政治の誕生＝新自由主義的政策。福祉から競争へ 規律権力から環境権力へ。フーコーが着目したといわれる戦後ドイツの秩序自由主義という政策の方が、日本の労働者を巡る権力構造をよりよく説明しているように思える。

参照：佐藤嘉幸『新自由主義と権力』2009年

《新自由主義的統治は、市場のメカニズムに直接介入するのではなく、「市場の諸条件」に介入する、とフーコーは述べている。つまり、新自由主義は、公共投資、社会保障といったケインズ的な仕方で市場経済のメカニズムに介入するのではなく、むしろ市場の諸条件に、つまり市場の存在条件である諸規則、諸制度といった「枠組」に介入することによって、経済プロセスを調整しようとするのである。》 p.36

○知的労働者や高度な技術労働者が資本に包摂されずに、増大しているという現実を捉える。

《実際、生政治的生産の社会的組織化がより自律的になればなるほど、その生産性が高まる。したがって資本にとって…価値の創造過程において労働力を合成あるいは包摂することが、これまでになく困難になっているのだ。》

参照：リチャード・フロリダ『クリエイティブ資本論 新たな経済階級の台頭』2008年  
 《「クリエイティブ・クラス」という新しい階層の台頭と共に、クリエイティビティが経済にもたらす期待は高まってきた。アメリカの被雇用者全体の30パーセント、約3800万人がこの階層に属している。私はこの階層の中核を科学、エンジニアリング、建築、デザイン、教育、芸術、音楽、娯楽に関わる人々と定義している。…そうした核のまわりにさらにビジネス、金融、法律、医療とそれら関連分野のクリエイティブな職業人の集団がある。いずれも複雑な問題解決に当たるが、そのために相当量の独自の判断や、高等教育が必要となる。》  
 《アメリカの社会は一枚岩とはっても言えない。…この社会は階層によって分けられている。…深く刻まれた境界線は、アメリカ経済にこれまで以上に影響を与えている。全米のあらゆる地域において、都市および郊外は徐々に、持てる者と持たざる者とに分割されつつある。…階層が地域によって区分されるにつれて、双方の対立は深まる傾向にある。…私たちが住む世界は、成長を遂げるクリエイティブ・クラスの集中する地域か、停滞するワーキング・クラスやサービス・クラスの集中する地域のいずれかに二分されているかのようである。》

図表4-3 階層別賃金（1999年）

階層	労働者人口	平均時給(ドル)	平均所得(ドル)
クリエイティブ・クラス	38,278,110	23.44	48,752
スーパー・クリエイティブ・コア	14,932,420	20.54	42,719
ワーキング・クラス	33,238,810	13.36	27,799
サービス・クラス	55,293,720	10.61	22,059
農業	463,360	8.65	18,000
アメリカ全体	127,274,000	15.18	31,571

【出典】Occupational Employment Statistics (OES) Survey, Bureau of Labor Statistics, Department of Labor, 1999. 巻末の補遺1を参照。

③先進工業社会において変容しつつある産業構造や就労構造は、第三次産業やサービス業の膨大な層を生み出してきた。これらの労働者多数派が何者なのかということ巡る論議のように見える。非物質的生産、女性化、移住という三つの要素を生政治的労働の搾取という観点から分析。⇒フォーコーの生政治が新自由主義批判（佐藤）と捉えるなら、資本主義批判と生政治を繋ぐキーワードがレントとなる。

④生政治が身体への搾取という第一章で捉えた主体と新自由主義における人的資本論とが組み合わさって、資本主義的レントという批判として結実。ということは、感情労働や非物質的労働も資本主義的にはレントを生む生産的労働となる。

○革命主体としてのマルチチュードの規定が完成。

《私たちはマルチチュードが自然成長的な政治主体ではなく、政治的組織化のプロジェクトであることを示さなければならない。…マルチチュードを作ることへと移す必要がある。》

⑤「新しい社会運動」と呼ばれる様々な抵抗運動は自然発生性ではなく、組織化されるべき（歴

史的?) 計画なのだから、それを促進すべきであると、読める。

#### IV. 〈帝国〉の帰還

○資本の分析：グローバル・ガバナンスについて 中心-周辺論への批判

《今や地球全体に拡大した資本主義の内部に、厳格な分割と階層秩序が生じつつあることを認識する必要がある。》

《資本にとっての新たな「外部」が形成されるのではなく、今や地球全体に拡大した資本主義の内部に、厳格な分割と階層秩序が生じつつあることを認識する必要がある。》

○都市型と農村型の融合？

《…ヨーロッパの歴史…14世紀のフィレンツェにおけるチオンピの反乱から17世紀のナポリにおけるマサニエッロの反乱まで、また16世紀のドイツ農民戦争からフランスの旧体制に反発するすべての農民反乱まで、…ロシア革命は都市型の民衆蜂起のモデル、中国革命は「長征」にいたるまですべてノマド的な農民型の民衆蜂起のモデルとみなされるかもしれない。…今日の民衆蜂起においては…この二つの特徴が融合し、新たな組織化の形象が立ち現れつつあることが明らか…》

○〈共〉を創出する。大都市。制度。

《大都市は〈共〉の空間、つまり人々がともに生活し、資源を共有し、コミュニケーションを行い、財やアイデアを交換する空間であり、したがって生政治的生産の現場である。》

参照：サスキア・サッセン『グローバル・シティ』邦訳2008

《…(ニューヨークでは)1950年には製造業は雇用のおよそ三分の一を、サービス産業は七分の一を占めていた。しかし、1980年までにこの割合は逆転する。これと平行するように、事務関連の職業、なかでも本社でのオフィス業務が1969年から1980年までで、41%も激減した。生産者サービスでも、1970年から1977年にかけて9.4%も雇用が失われた。しかし、その後1977年から1982年の五年間にわたり、19%の増加をみせた。1996年までには、生産者サービスがニューヨークの雇用の三分の一以上を占めるまでになった。他方、製造業の割合は1977年の22%から1996年には9%へとさらに減った。》

《1980年代初めは、高度資本主義で起きた重要な変化に影響されて、実にさまざまな展開がみられた時期であった。住宅再建は、その一側面に過ぎなくなっていた。展開というのはたとえば、サービス産業への移行やその結果階級構造の変容、消費とサービス提供の民営化への移行が挙げられる。こうした変化が目に見える形で現れたのが、ジェントリフィケーションだった。たとえば、湾岸地区の再開発や、大都市で林立するホテルとコンベンション会場の複合施設、大規模な高級オフィス・住宅開発、そしてお洒落で高級なショッピング街の開発などが挙げられる。》

○1968年革命 2005年のパリ暴動 ハリケーン・カトリーナへの論評

《もっとも重要な問題は…いかにして民衆蜂起を実効性のあるものにするのかということであり、私たちが基本的にレーニンのこの問題提起に賛成する。…だが、生政治的生産の文脈においては、搾取や福祉、生存をめぐる闘争を金銭や賃金の問題に転換することは、次第に不可能になりつつある。》

①都市を戦場とする新たな階級闘争が始まるのか？ただし、この戦いは二つの要素に引き裂かれているように見える。都市貧民の反乱とコミュニケーション能力に長けたクリエイティブ階級

との結合か。彼らが〈共〉を制度として作り上げるものは何か。

- ②グローバル・ガバナンスが直接的生産過程にその根源を有しておらず、外から金融として収奪するという構造が有効であるなら、都市はブルジョアジーにとって最も死守しなければならない要塞であるはず。

表 6-4 イギリス全体とロンドン、アメリカ全体とニューヨーク、日本全体と東京における生産者サービス業種別の雇用比率（1980年代-1990年代）

		生産者サービスの対全雇用比率 (%)				都市全雇用の対全国雇用比率
年	都市/国	銀行業と金融業	保険業	不動産業	企業者サービス	
1981年	ロンドン	4.5	1.9	0.6	8.1	15.7
	イギリス全体	2.1	1.1	0.3	4.3	—
1984年	ロンドン	4.8	1.7	1.0	10.2	16.6
	イギリス全体	2.4	1.1	0.6	5.0	—
1999年	ロンドン <sup>a</sup>	8.4	—	2.2	—	15.4
	イギリス全体	3.4	1.0	2.5	12.0	—
<hr/>						
1981年	ニューヨーク	10.2	3.4	3.0	8.3	3.9
	アメリカ全体	3.4	2.3	1.3	4.1	—
1985年	ニューヨーク	10.7	3.2	3.1	9.4	3.7
	アメリカ全体	3.5	2.2	1.4	5.3	—
1997年	ニューヨーク	8.8	3.8	7.2	8.5	2.9
	アメリカ全体	3.4	2.2	1.3	7.6	—
<hr/>						
1980年	東京 <sup>b</sup>	4.2	—	1.8	—	10.2
	日本全体 <sup>c</sup>	2.8	—	0.7	—	—
1985年	東京 <sup>b</sup>	4.2	—	1.9	—	10.2
	日本全体 <sup>c</sup>	3.0	—	0.8	—	—
1997年	東京 <sup>b</sup>	5.7	—	2.5	—	13.7
	日本全体 <sup>c</sup>	3.9	—	—	—	—

出典：イギリスのデータに関しては、Census 1981, England and Wales, Census of Employment, 1984, UK, Employment Gazette (U.K.) 95, no. 10の歴史補足第2号、U.K. National Statistics Office, 1999 Labour Market Trendsをもとにした。アメリカのデータに関しては、U.S. Census Bureau, County Business Patternsのアメリカとニューヨーク関連記事（1981年、1985年、1999年）をもとにした。日本のデータに関しては、Government of Japan, Management and Coordination Agency, Japan Statistical Yearbookの1988年版と1999年版をもとにした。

注 a：保険や年金基金の金融仲介活動が含まれる。

注 b：1980年、1985年、1997年のデータには、銀行業、金融、保険が含まれる。

注 c：1980年と1985年のデータは銀行業、金融、保険の総計を表しており、1997年のデータには不動産が追加されている。

表 6-5 ニューヨークとロンドンにおける生産者サービス雇用の対全雇用比率(1971-1999年)

	生産者サービス雇用の 対都市全雇用比率 (%)	生産者サービス雇用の 対国内全雇用比率 (%)	都市の生産者サービス雇用の 対国内全雇用比率 (%)
ロンドン			
1971年	28.0	16.0	40.3
1981年	31.0	15.7	34.1
1984年	32.8	16.6	32.6
1999年	30.8	4.7	25.1
ニューヨーク			
1977年	29.8	4.2	8.3
1981年	32.9	3.9	7.8
1987年	37.7	3.7	7.6
1997年	27.5	2.9	15.5

出典：以下の文献をもとに筆者が算出した。：Employment, Earnings and Productivity Division, Office for National Statistics 1999 in U.K. Labour Market Trends, February 2000の表16及びU.S. Census Bureau, County Business Patternsのアメリカとニューヨーク関連記事（1977年、1981年、1987年、1998年）、Census of Employment (U.K.) の1971年版と1981年版、そしてEmployment Gazette (U.K.) 95, no. 10の歴史補足第2号（1987年1月）。

## V. 資本を超えて

- 資本主義に取って代わる新たな経済のイメージ。これこそソ連が崩壊した理由。規律から創造性へ。

《今日の経済においては生政治的生産がヘゲモニーを握りつつあり、優に 100 年以上にわたって工業が果たしてきた役割を引き継ごうとしているということである。…ネットワーク、知的・文化的回路、イメージや情動の生産などを統合する必要に迫られている。》

○新たな経済システムは、古典的マルクス主義では解けない。価値法則は無効となっている。《単純労働と複雑労働の区別は、マルクスが単純な協業と定義した資本主義的発展の歴史的段階においては有効だったかもしれないが、すでにマニファクチャの段階で難問となっていた。同様に、生産的労働と不生産的労働との区別も、マニファクチャに関しては何らかの妥当性を有していたが、大規模工業の時代には難問になった。さらにポスト工業化時代の現在では、生政治的労働の生産的価値が、他のすべての生産要素を排除するのではなく包含することによって、ヘゲモニーを握るにいたっている。こうした進化が生じた今、価値法則を（古典的な定式化に倣って）経済システムのグローバルな生産性の測定法則とみなしたり、その均衡の規則とみなすことは明らかに不可能である。

現在行われているような、市場価値や顧客吸引力、無形資産などによって尺度を再創出しようとする試みは、価値法則が生産性の測定には不適切であることを示す一方で、生産力（依然として労働にもとづいている）の性質に実質的な変化があったことを明らかに物語っている。資本にとって尺度は依然、不可欠なものであるとはいえ、労働と価値の測定を目的としたすべての装置——生産的労働と不生産的労働、労働時間と労働日の組織化、労働の組成そして／または産業が生産全体に対して及ぼすヘゲモニー、労働賃金と社会的所得など——は今や危機にあり、生政治的社会では適用できないのである。》 P.180-181

#### 補足のようなまとめ

①価値法則が無効なのはいいとしても、ただそれを否定しただけでは、非物質的生産の中身が明らかになる訳ではない。更に、生政治的生産となれば、自己規律的な労働ではなく、排除と包摂の最強資本主義的イデオロギーという以外に何かを付加する必要があるのだろうか。

②《〈共〉的な形態の富—知識、情報、イメージ、情動、社会関係など—の生産》がネットワークや知的文化的回路など通じて、発展した工業社会の隅々にまで行き渡っているならば、これを一つの階級が、あるいは、少数の私的所有者たちが収奪するためには、量的な物質的なものとして立ち現れる回路が必要である。

参照：北村洋基『情報資本主義論』2003年

《…商業資本は巨大化し、いまや産業資本と密接に結びついており、そこにおける利潤を産業資本が生み出した剰余価値からの控除としてとらえることはきわめて不自然である。生産過程で生産された商品（剰余価値を含む）が、商業資本のもとにおいて、「保管、発送、輸送、仕分け、小売」だけでなく、「価値計算、簿記、出納、通信など」の「純粋な流通費」とされている部分における労働も含めて、流通業務に携わる労働によってさらに価値が付加されると考えるほうがはるかに現実的である。そして、商業資本もこれらの生産的労働によって独自の剰余価値を獲得していると理解すべきであろう。》

③レントの根拠がどうであれ、それを貨幣形態で所有移転するためには、そのための仕組みが必要であるはずだが、それについての分析がない。

《金融資本およびケインズが無機能な投資家と呼んだ広大な階層が、資本主義的蓄積の管理運営において中心的な位置を占め、労働過程よりはるかに抽象的なレベルで創出された価値を捕獲

し、収奪＝収用している…》  
これだけでは、あまりにも「抽象的」すぎる。

④グレーバーが、日常的な協同作業や家族的な経済行動の中に共産主義を見いだしているのに比較して、ネグリ／ハートは、それらに批判的である。腐敗した〈共〉という規定は、分かりづらい。家族が解体している方向性なのか、家父長制的家族の根強い存続なのか。  
《…家族内での悪夢のような状況から逃れようとする人の多くは、自分を喜んで受け入れてくれる企業に逃げ場を求め、反対に企業から逃れようとする人は、家族に逃げ場を求める。あちこちで議論されている仕事と家庭との「バランス」とは、実際には二つの悪——〈共〉の腐敗した形態——のうちの、ましなほうを選ぶ選択でしかない。》

⑤様々な社会理論における人間観：

「新しい社会運動」と呼ばれていた様々な抵抗運動が 80 年代以降、世界中で沸き起こってきたが、それらを一括するにはできない。フェミニズム理論には、少なくとも幾つかの分派があり、政治的には決定的に分岐する傾向も見られる。また、反人種主義との亀裂もいくつか見つけることができる。更に、中南米における民衆運動に対する宗教的（カソリック）影響力や、二重権力構造などについての分析は、あまり見られない。

参照：ダナ・ハラウェイ『猿と女とサイボーグ』1991 年

《性／ジェンダーの区分が生命科学や社会科学で戦術上有用でありつづけたことや、多くのフェミニズム理論に悲惨な帰結をもたらした。フェミニズム理論は、ジェンダーという十分に政治的で歴史的な概念をもってして、リベラリズムや機能主義の限界を幾度となく、超えようとしてきたというのに、ジェンダー概念こそ、フェミニズム理論を、リベラリズムや機能主義のパラダイムに縛り付けていたのである。この失策の一端は、性そのもの、そして性／ジェンダーの区分やこの対立項のそれぞれに含まれた分析のロジックの持つ歴史や認識論上の起源について、歴史の問題として把握し、相対化する作業を怠ったことにある。》 p.259

《生物は作られたものである——生物は、世界を変容せざるにはおかないような構築物である。個々の生物にとっての境界を構築するという、免疫学の言説が受け持っている作業は、産業社会、ポスト産業社会を生きる人々にとっての病や死の体験を媒介する媒介機構として、きわめて有力な存在となっている。》